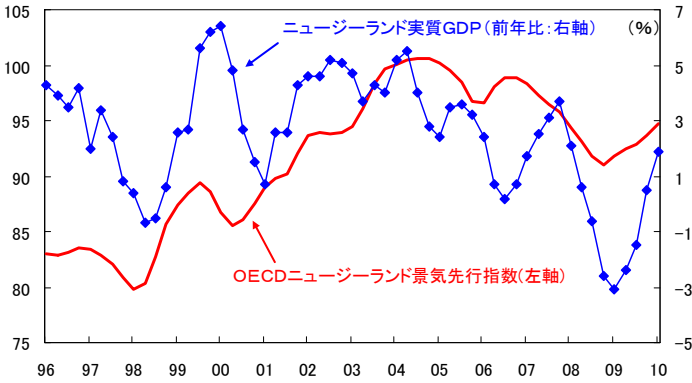


ニュージーランド経済について

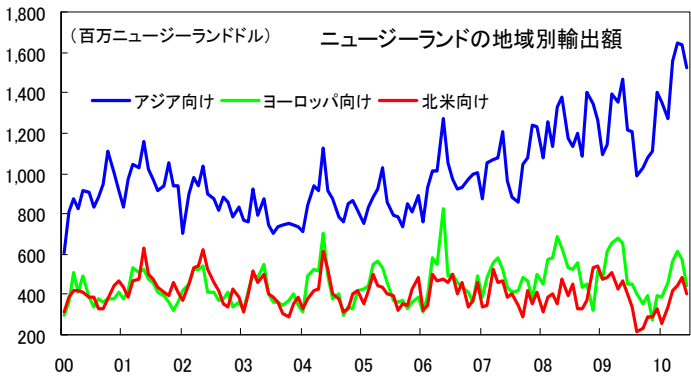
- ✓ アジア向け輸出の好調等を背景にニュージーランド経済は前期比で4期連続プラス成長を維持。
- ✓ 商品価格の上昇を受けた交易条件の改善は企業収益を高め、幅広く経済成長に貢献すると考えられる。
- ✓ 相対的な金利の高さはニュージーランドドルのサポート要因。

●ニュージーランドの経済成長率の先行指標ともみえるOECDニュージーランド景気先行指数は昨年前半以降、堅調推移に転じており、GDPもプラス成長が続いています(図表①)。この背景の一つに、アジア向け輸出の増加があります(図表②)。

【図表①】

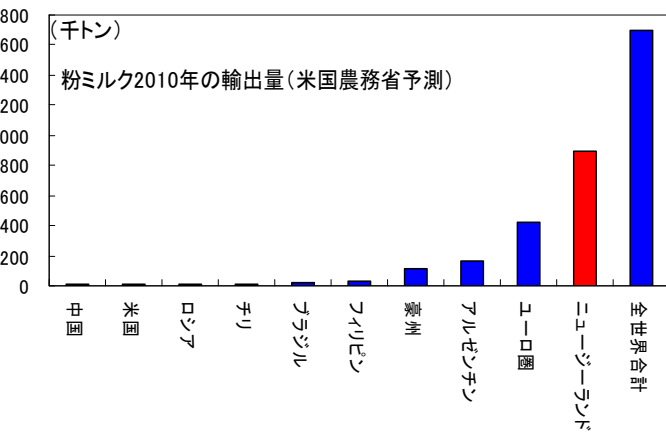


【図表②】

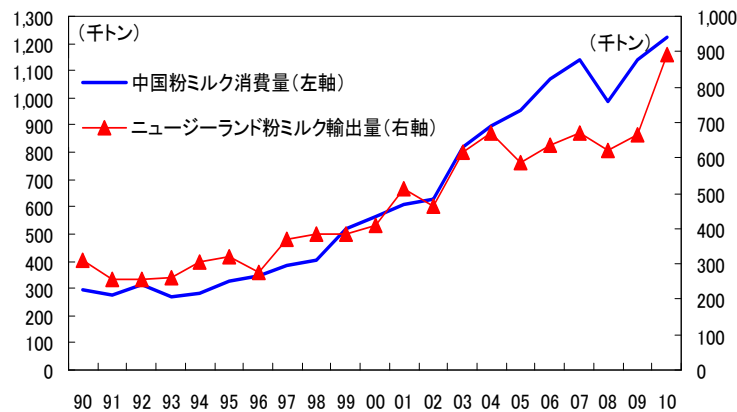


●ニュージーランドの主要輸出品目は、粉ミルクやバター等の酪農製品が全体の約20%弱で最大、肉類が約10%弱で次点となっています。その中で、粉ミルクの輸出額は世界最大規模です(図表③)。粉ミルクの輸出は、急速に進む中国の食の西洋化を受け、増勢が強まっています(図表④)。

【図表③】



【図表④】

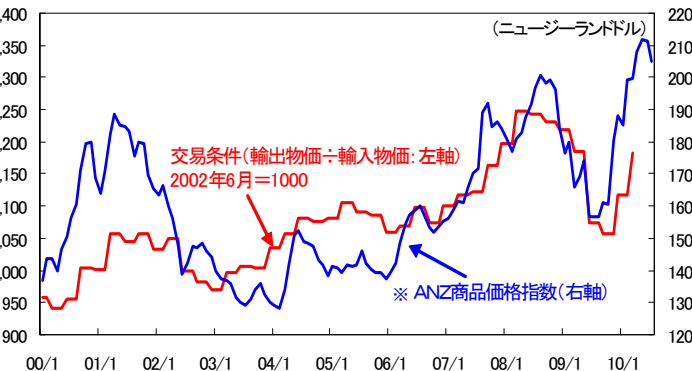


●主要輸出品目の酪農製品・肉類に基づいたANZ商品価格指数※は上昇しており、今後の交易条件の改善を示唆しているようです。

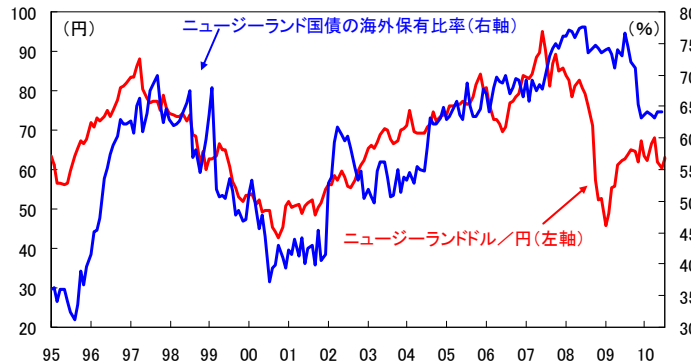
※オーストラリア・ニュージーランド銀行が発表するニュージーランドの商品価格指数

●ニュージーランド10年国債の利回りは現在5%弱であり、米国(2.9%)、ユーロ圏(2.6%)、日本(1%)と比べても相対的に高水準にあります。このこともあり、ニュージーランド国債の海外保有比率は高く、この推移に連れてニュージーランドドルも上昇傾向にあります。

【図表⑤】



【図表⑥】



出所:図表は全てブルームバーグのデータを基にニッセイアセットマネジメント作成

当資料は市場環境に関する情報の提供を目的としてニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
 <審査確認番号H22-TB91>